

# 経済連情報 9

安全・安心・新鮮でおいしい  
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2024. 9  
● NO.1320

## 「静岡いちご」フラッグシップ輸出産地に認定 ～輸出拡大に向けた取組～

### Main topics

「静岡いちご」フラッグシップ輸出産地に認定  
～輸出拡大に向けた取組～ ……………01

### topics&news

ピオーネ、シャインマスカットをPR  
県知事へ県産ブドウを贈呈 ……………03

県産日本酒PRへ  
GI静岡スタートアップ交流会を開催 ……………03

静岡県内イオンで朝採れ野菜を販売  
従業員が収穫体験通じ消費者へPR……………04

「特選和牛静岡そだち」「食通の静岡牛葵」  
合同枝肉共励会を開催 ……………04

有利販売に向けた取組  
チンゲンサイ品質査定会・販売対策会議 ……05

消費拡大と農家所得向上を目指して  
浜松洋菜セルリー販売反省会を開催 ……05

営農指導のDX化へ  
出向く活動管理者研修会を開催 ……………05

暑い夏に水出し冷茶を  
JA静岡茶産地プロモーション(冷茶期)を実施 ……06

品質向上による販売強化を  
第23回静岡県なし果実品評会 ……………06

### 営農支援だより

「高温障害に強い水稻品種」の導入について…07

### お知らせ

提携協NEWS ……………08

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 ……09

資産活用課からのお知らせ ……………09

職員紹介……………10



▲県産ブドウを県知事に贈呈



▲特選和牛静岡そだち・食通の牛葵 合同枝肉共励会

# 「静岡いちご」フラッグシップ輸出産地に認定 輸出拡大に向けた取組

## 1 はじめに

本会は、いちご、みかん、野菜類、茶などの県産農畜産物の輸出事業に取り組んでいます。流通開発課が中心となり、各部署間で連携し、県産農産物の輸出拡大と輸出先国の規制やマーケティングに対応した産地・農産物づくりを行っています。

本県の輸出品目の中でもいちごは特に人気が高く、香港、米国、シンガポール、マレーシアなどのアジア・北米諸国を中心に輸出を実施しています。

今回のメイントピックスでは、「静岡いちご」の輸出拡大の取組について、詳しくご紹介します。

## 2 「静岡いちご」のフラッグシップ輸出産地認定について

本会は6月26日、農林水産省が今年度新たに新設した制度で、農畜産物の輸出をけん引する「フラッグシップ輸出産地」として、「静岡いちご」

### フラッグシップ輸出産地とは

「フラッグシップ輸出産地」は農産物を輸出している産地のうち以下の条件をすべて満たす産地を指します。

- 1 輸出先国・地域の規則やニーズに対応した輸出を行っていること
- 2 一定の量または金額の輸出実績があること
- 3 サプライチェーンを構築し、継続的かつ安定的な輸出を行っていること

この制度は、応募のあった各輸出産地を上記の選定基準に基づき評価し、農林水産大臣が認定するものです。

の品目で認定を受けました。初めての認定となった今回は、応募のあった全国の農業法人やJJAなどから42の産地が選ばれました。青果物が22

件、畜産物が10件、茶が6件の内訳で、いちごは本県を含め4件が認定されました（熊本2件、長崎1件）。8月8日にはさいたま市の関東農政局で認定証授与式が執り行われ、関東農政局長から認定証を授与されました（写真1）。



▲写真1 認定証授与式の様子

また、授与式では認定産地ごとに産地の課題や今後の抱負について発表しました。

同制度は、海外の規制やニーズに対応し、継続的に輸出に取り組み、手本となる産地を認定するものです。農畜産物の一層の輸出拡大を図るため、輸出産地の取組を見える化し、輸出産地の形成を促進することが狙いで、成長段階に応じた支援も検討されています。

国からの認定を受けたことにより、輸出産地間の交流会、海外バイヤーとのマッチング会、GFP（農林水

表1 JA静岡経済連輸実績

品目	金額 (千円)		前年比 R5/R4
	R5	R4	
いちご	55,837	25,450	219%
メロン	27,884	34,140	82%
柑橘類	22,193	30,930	72%
野菜・果実	7,384	14,940	49%
仕上茶	5,540	4,360	127%
その他(花卉・加工品等)	72	260	



▲写真2、3 静岡いちごを使用したケーキを販売した香港のエーワンベーカーリー



産物・食品輸出プロジェクト）ウェブサイト等を通じた国内外への情報発信、各種補助事業での優遇措置を含めた支援などを受けることが可能になります。

### III 「静岡いちご」輸出の取組

本会では、例年12月～5月にかけて「紅ほっぺ」、「きらび香」の2品種でいちごの輸出事業に取り組んでいます。

#### 1. 輸出実績について

「静岡いちご」の輸出は、近年増加傾向で、令和5年度は前年を大きく上回り、県内の輸出品目ではトップの輸出金額となりました（表1）。

2. 輸出先国での販売について

海外では、主に日本の輸出業者や現地の卸売会社などを通じて飲食店や小売店を中心に販売しています。高島屋、明治屋、ドン・キホーテグループなど、日系企業での取り扱いが多く、生食用の高級青果として販売されています。また、イタリアン トマトカフェやエーワンベーカーリー



▲写真4、5 シンガポールで店頭に並ぶ静岡いちごと販促活動の様子



などの海外店舗では、ケーキ用のいちごとして供給しており、業務用需要も増加しています（写真2、3）。

今年3月に本会がシンガポール明治屋などで実施した海外マーケティング研修では、若手職員による販促活動やアンケート調査を行いました。結果を基に品種や化粧箱のデザインなどの検討をすすめ、海外の消費者のニーズに対応していきます（写真4、5）。

3. 検疫等の規制に則した農産物づくり

流通開発課は、県内JAや生産者、全農インターナショナルアジアなどと連携し、輸出先国の規制に則した産地づくりを実施しています。令和



▲写真6 台湾向けイチゴの出荷準備をするJA職員

5年産のいちごでは、JA大井川園芸協議会母部会の協力のもと、同JA管内で天敵（生物農薬）を利用してタニの発生を抑えるなどのIPM（総合的病害虫防除・雑草管理）を実施。残留農薬の基準が厳しい台湾への輸出が県内で初めて実現しました（写真6）。2月～3月にかけて計4回、約200kgのいちごを輸出し、手に取りやすい少量パック（1パック200g）で販売しました。

なお、いちごの輸送では、着荷時の過熟や傷みなどが課題となっており、最適な緩衝材の研究や予冷、輸送効率向上などの対策をすすめています。

### IV おわりに

今回のメイントピックスでは、今年度「フラッグシップ輸出産地」の認定を受けた本会の「静岡いちご」輸出の取組について紹介しました。

本会は、令和6年度も引き続き関係機関と連携した県産農畜産物の輸出拡大と農産物づくりの強化に取り組んでまいります。輸出事業の取組を通じ、多様な実需者ニーズに対応した販売方法の拡大を目指します。

●担当…営業部流通開発課

TEL..0544-284-9728

ピオーネ、シャインマスカットをPR  
**県知事へ県産ブドウを贈呈**

静岡県落葉果樹振興協会ぶどう部会（事務局・柑橘果樹課）は7月16日、鈴木康友県知事にJ Aとびあ浜松産のピオーネとシャインマスカットを贈呈しました。

生産者を代表し、静岡市葵区の県庁を訪れた同部会の波多野善弘会長らは「近年は夏場の猛暑で難しい栽培環境が続いているが、生産者の頑張りで美味しいブドウができた、静岡で育ったブドウをぜひ味わってほしい」と話し、県産ブドウをPRしました。

試食した鈴木知事は「香りも良く、とても美味しい」と評価しました。



▲鈴木知事に作柄や生育状況を報告する波多野会長ら▲



県産日本酒PRへ  
**G I 静岡スタートアップ交流会を開催**

県産日本酒の産地名「静岡」が地理的表示（G I）に指定されたことを受け、名古屋国税局は6月18日、静岡市内で県産日本酒の認知度向上を目的とした交流会を開きました。鈴木康友県知事をはじめ、県酒造組合流通事業者など関係者ら約150人が参加しました。

県内では「静岡酵母」を発酵に用いることや県内で採取した水を使うことなどを条件に、24酒蔵の75点が県酒造組合のG I認定酒の審査を通過しました。

交流会では、県工業技術研究所の研究員による講演や落語家の春風亭昇太さんらゲストによる座談会で、G I認定酒の魅力やブランド力向上について意識を高めました。

G Iは地域ブランドを保護する国の制度で、製品の強みや魅力が見える化され、付加価値の向上や需要者の信頼性向上、輸出促進などが期待されます。

本会は県や関係機関と連携し、酒米「令和誉富士」の普及と計画生産を通じ、県産日本酒の消費拡大とG I認定酒のPRに取り組みます。



▲鏡開きをする鈴木知事（左から2人目）ら関係者



▲交流会に参加した春風亭昇太さん（左）と本会藤野勉常務（右）

## 静岡県内イオンで朝採れ野菜を販売 従業員が収穫体験通じ消費者へPR



▲収穫のようす

特販課は7月16日、イオンリテール(株)と連携し、J Aしみず産の枝豆(駒豆)の収穫体験会を実施しました。企画は、店舗で販売を担当する従業員やバイヤーを産地に招き、青果物の栽培から収穫、出荷までの流れを見学・体験してもらうもので、商品知識の向上や収穫した青果物を売る楽しみに繋げてもらうことが目的。収穫体験会には、バイヤーとイオン清水店、富士宮店の従業員11人が参加しました。



▲出荷作業を体験する従業員



▲店舗販売ではPOPで朝採れをPRした(富士宮店)

POPなどで「朝採れ」を消費者へPRしました。同課は、取組を通じ県内イオンとの販売連携強化を実践しています。

## 「特選和牛静岡そだち」「食通の静岡牛葵」 合同枝肉共励会を開催



▲▼出品された枝肉の品質を確認する関係者

特選和牛静岡そだち認定農場の会と、食通の静岡牛葵協議会は7月29日、浜松市食肉地方卸売市場で、第35回「特選和牛静岡そだち」と第24回「食通の静岡牛葵」の合同枝肉共励会を開き、生産者やJ A職員らが出席しました。

共励会では、黒毛和種雌の「静岡そだち」15点、交雑種の「葵」10点が出品されました。最優秀賞には、「静岡そだち」でJ Aとぴあ浜松の峯野忍さん、「葵」でJ A静岡市の勝山



- 特選和牛静岡そだち**  
最優秀賞  
峯野 忍 (J Aとぴあ浜松)
- 優秀賞**  
水野 順朗 (J Aとぴあ浜松)  
野島 泰雄 (J A遠州中央)
- 食通の静岡牛葵**  
最優秀賞  
勝山畜産(株) (J A静岡市)
- 優秀賞**  
大塚 一司 (J Aハイナン)  
勝山畜産(株) (J A静岡市)

畜産(株)が輝きました。審査した日本食肉格付協会浜松事業所の石川悠未所長は「生産者が入念な肥育管理でブランド強化に取り組まれ、良い牛が揃った。最優秀賞の枝肉はロースに厚みがあり、脂肪交雑も良好だった」と講評しました。受賞者は次のとおり(敬称略・カッコ内はJ A名)。

## 有利販売に向けた取組 チンゲンサイ品質査定会・ 販売対策会議

名古屋事務所は7月23日、京都府の京都青果合同(株)でチンゲンサイの品質査定会と販売対策会議を開き、関西・中部地域の市場18社とJA全農ながの、JA全農ふくれん、県内産地のJAとびあ浜松、JA遠州中央の担当者ら31人が参加しました。産地・消費地の連携強化と生産者の持続可能な農業経営の支援、流通拡大が目的。

査定会では、全国16産地のチンゲンサイの品質や病害虫の有無などを確認。猛暑やゲリラ豪雨など厳しい生産環境の中、黄変やポリウム不足が懸念されたものの、本県産は傷みが少なく高い品質評価を得ました。



## 消費拡大と農家所得向上を目指して 浜松洋菜セルリー販売 反省会を開催

浜松洋菜共販運営委員会(事務局・西部みかん園芸課)は7月25日、浜松市内で「浜松洋菜セルリー販売反省会」を開き、生産者やパートナー市場、県内JAなどから28人が参加しました。

会議では、産地から令和5年産セルリーの販売実績と取組について、卸売会社からは販売経過を報告しました。次年度の販売については、冬場の価格底上げや契約販売、出荷計画、品質強化などを協議しました。

浜松洋菜セルリー共販幹事会の内山英樹幹事長は「セルリー栽培の継続が厳しい状況が続いている。次年度に向け、更なる消費拡大と価格の底上げを目指して取り組みたい。」と話しました。



## 営農指導のDX化へ 出向く活動管理者研修会を開催

生産振興開発課は7月25日、県農業会館で「出向く活動管理者研修会」を開き、県内JAの営農経済渉外(TAC)管理者ら12人が参加しました。研修会では、JA全農の担当者がAI分析による最新の栽培管理システムとしてBASFデジタルファーム社の「ザルビオフィールドマネージャー」を紹介し、出向く活動

での推進を呼びかけました。システムは、気象データや過去の栽培情報、衛星画像などからAIが解析し、生育予測、病害虫防除、雑草管理などの農作業の計画や効率化、収量の増加などを手助けするものです。

同課は、「デジタル端末を持たない生産者でもスマート農業ができるよう、JA主体で現場の営農指導DX化をすすめ、生産をサポートしていく」と話しました。今後は、JA全農や県内JAと連携し、県内産地で同システムの研修会などを通じて普及提案を進めていきます。

また、研修会終了後に行った「静岡県営農経済渉外(TAC)連絡協議会」では、JA全農からTACの全国情勢や活動強化のポイントなどを共有しました。各JAの担当者からは、出向く活動の取組状況と今年度の活動計画などを報告し、業務の課題や疑問点などについて意見交換しました。

本会からは、肥料農薬課による肥料の情勢報告、10月に開催予定の営農経済事業パワーアップ大会で報告する優良事例の選定を行いました。



▲ザルビオについて説明を受ける参加者ら

## 暑い夏に水出し冷茶を JA静岡茶産地プロモーション(冷茶期)を実施

茶葉課は、6～8月にかけて夏期(冷茶期)のJA静岡茶産地プロモーションを実施し、「揉一ひとえつゆひかりブレンド」をテレビ・ラジオ番組やウェブ広告、イベントなどを通じてPRしました。

テレビ番組「ただいまテレビ」(月～金曜16時50分からテレビ静岡で放送)では、同課の加用智之課長が6月25日の生放送に出演し、同商品の特徴や美味しい飲み方などを紹介しました。

また、JA共済と静岡第一テレビが主催する「シズオカキッズ応援隊」イベントに特設ブースを出展し、冷茶を多くの来場客へ振る舞いました。



▲「ただいまテレビ」収録のようす



▲「シズオカキッズ」への出展



▲静岡鉄道でのプロモーション▲



7月下旬から8月上旬にかけては、期間限定で静岡鉄道のレインボートレイン1編成をポスターで埋め尽くしました。  
プロモーションは3期に分けて通年で展開し、商品の取り扱い拡大と静岡茶の消費拡大を目指します。

## 品質向上による販売強化を 第23回静岡県なし果実品評会

県落葉果樹振興協会(事務局・柑橘果樹課)は8月8日、JAふじ伊豆富士宮農産センターで「第23回静岡県なし果実品評会」を開きました。県内3JAから「幸水」23点が出品され、最高位の金賞にはJAふじ伊豆の飯島正道さんが選ばれました。県や市場関係者ら審査員8人が、形状や玉ぞろい、色沢などの外観、肉質や食味などの内容を審査しました。平均糖度は13・3度、最高糖度は15度と平年より高い傾向でした。その他の入賞者は次のとおり(敬称略)



▲審査のようす



▲金賞を獲得した飯島さんの梨

**金賞**  
静岡県知事賞  
静岡県農業協同組合中央会代表理事  
会長賞  
飯島 正道 (JAふじ伊豆)

**銀賞1席**  
静岡県経済産業部長賞  
静岡県経済農業協同組合連合会代表  
理事理事長賞  
瀧 智 (JAしみず)

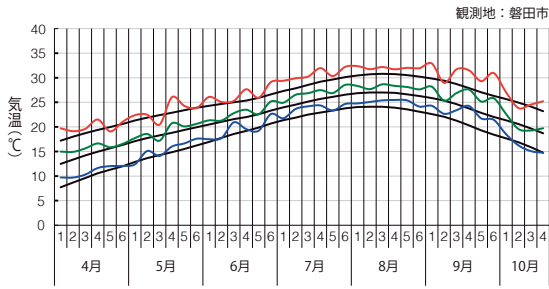
**銀賞2席**  
静岡県農林技術研究所果樹研究セン  
ター長賞  
平岡 勝彦 (JAしみず)

**銅賞**  
三浦 光太郎 (JAふじ伊豆)  
高橋 康文 (JAふじ伊豆)  
田島 一寿 (JAふじ伊豆)  
大畑 守 (JA大井川)

# 営農支援だより

作物・産地・営農・  
技術・資材などの  
情報をお届けします

令和5年稲作期間の気象表(気温)



4月から9月までの6か月間、気温は、かなり高めに推移しています。特に、9月が異常に暑いことが分かります。

## 「高温障害に強い水稻品種」の導入について

### 一 概況

近年、夏の高温が問題となつて  
います。

特に、令和5年の夏は、観測史上最高に暑い夏であったといわれており、その影響から、水稻栽培において、「白未熟粒」や「胴割れ米」などの高温障害が日本海側の米産地を中心に大発生しました。今回は、地球温暖化の影響とその対策、特に、品種の開発・選定の一端をご紹介します。

### 二 気温上昇(温暖化)の影響とその対策

地球温暖化の水稻への影響は、すでに、次のようなところで顕著になっており、注意が必要です。その影響により、「白未熟粒の増加」「胴割れ米の増加」などの「高温障害」発生しています。

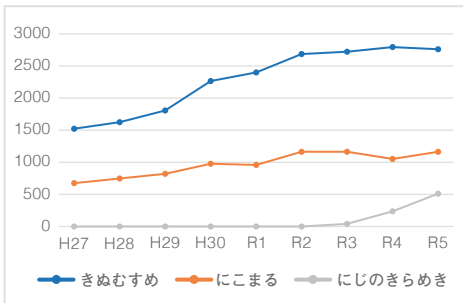
#### (1) 「白未熟粒」や「胴割れ米」の増加

・水稻の場合、出穂後20日間の日平均気温が26℃を上回ると白未熟粒が発生しやすくなります。  
・胴割れ米は、出穂後10日間の気温が高いと発生率が高まります。  
・白未熟粒や胴割れ米の発生は、窒素不足や日照不足などの条件が重なることより発生しやすくなります。

#### (2) 高温障害の発生を防止する対策

① 高温障害に耐性のある品種選定  
高温障害に耐性のある水稻品種を選定することが最も重要です。  
② 適切な水管理  
・「かけ流し灌漑」や「夜間通水」などにより、高温になるリスクを下げることや早期落水を行わないなどの水管理が重要となります。  
③ 堆肥の施用などによる地力の向上と適切な施肥

高温耐性品種の栽培面積の推移



最近、「にじのきらめき」の栽培面積が大きく伸びています。(栽培面積は、米麦協会の推定)

### 三 高温障害に強い水稻品種

昨年の災害級の高温の影響を受け、全国的に高温障害に強い品種に注目が集まっています。  
① 県内では、「にじのきらめき」「きぬむすめ」「にこまる」の3品種を奨励品種に指定して推進を図っており、近年、その栽培面積は増加しております。  
② 他県では、最近新たな高温耐性

品種が開発されています。

他県の高温耐性品種の育成

育成機関	品種名
農研機構	にじのきらめき、にこまる、きぬむすめ
愛知県	あいちのこころ
富山県	富富富
山形県	つや姫
新潟県	新之助、こしいぶき
佐賀県	夢しずく
熊本県	くまさんの輝き

各県が争うように、高温耐性と良食味を両立した新品種を育成しており、品種の転換が進んでいます。

### 三 今後の方向

静岡県では、高温障害に強い品種として、「にじのきらめき」「きぬむすめ」「にこまる」の3品種を奨励品種として推奨していますが、将来的には、より高温耐性の強い品種の育成を検討することも必要です。

「きぬむすめ」の採種ほ場



静岡県では、「きぬむすめ」「にこまる」の採種ほを設けて、種子の確保を進めています。

古川信好  
(食糧部営農技術コンサルタント)



# 提携協NEWS

「静岡県協同組合間提携推進協議会」（略称：提携協）では、1990年の発足以来、構成団体である地域の協同組合（農協・漁協・生協）6団体間で事業提携に向けた検討や交流事業、環境保全活動などに取り組んでいます。この提携協NEWSでは本協議会の活動内容について報告します。

## 令和6年度静岡県協同組合間提携推進協議会総会を開催



6月17日、静岡県協同組合間提携推進協議会（提携協）は、静岡市内で総会を開き、関係者24人が出席しました。総会では、令和5年度活動報告と収支決算、令和6年度の事業計画などを協議し承認を得ました。

総会後の記念行事では、日本協同組合連携機構の伊藤常務理事・横溝部長が「2025年国際協同組合年の取組み」について講演しました。

## 令和6年度活動報告 富士山麓育林活動

6月22日、富士宮市で富士山麓育林活動を行いました。この活動は国際協同組合年の事業として2012年に行った記念植樹の維持管理を目的として実施しているものです。



当日は、富士森林組合の指導のもと、草刈り鎌を使用して腰の丈以上に成長した雑草を刈り取り、苗木や記念植樹地を囲っている防護ネットに巻き付いているつるを外す作業を行いました。

今後も、この「富士山麓育林活動」を継続して実施し、記念植樹地が立派な林になるよう苗木の成長を見守っていきます。

## 令和6年度活動報告 水生生物観察会

7月27日、藤枝市の瀬戸川で水生生物観察会を開催しました。身近な河川に生息する生物の調査を通じて参加者に水質保全や環境保全に対する意識を高めてもらうことが目的。

当日は、静岡県内水面漁業協同組合連合会の花井孝之専務理事の指導の下、構成団体職員の親子が瀬戸川（瀬戸谷びく石ふれあい公園域）に生息する水生生物を採取しました。子どもたちは指導員から採取方法を教わり、サワガニやヨシノボリなどの水生生物を観察しました。河川の生態系の豊かさを実感し、環境についても考えてもらう機会となりました。



# 「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課(TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会(事務局:食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米のPRを行っています。

令和6年度の第4回目(8月17日)の放送では、タレントの村上佳菜子さんと北村花絵アナウンサーが磐田市と袋井市から「にこまる」を紹介しました。西部地区産の「にこまる」は令和5年産の食味ランキングで6年連続の最高評価「特A」を獲得したブランド米です。

番組では、JA遠州中央の生産者、鈴木康功さんと菊池直樹さんがビデオメッセージで出演し、「にこまる」の美味しさをPRしました。



静岡県西部地区にこまる生産者  
協力:JA遠州中央  
鈴木 康功さん 菊池 直樹さん



静岡 コラーゲンたっぷり!磐田の名物グルメ



静岡県西部地区 にこまる  
6年連続特Aを受賞したお米  
食べたら笑みがこぼれるほどおいしい

## 資産活用課からのお知らせ

清水農業協同組合

担当 暮らし支援部 資産活用課 054-284-9523

### 柑橘共選場テントハウス建設工事 安全祈願祭

JALみずは8月5日、柑橘共選場テントハウス建設工事の安全祈願祭を行いました。

神事は、石切山誠組合長をはじめ、13名の出席者により厳粛に執り行われました。

今回の工事は、柑橘共選場の敷地全体の整備計画の一環として、選果作業及び柑橘の一時貯蔵としての機能を持たせたテントハウスを柑橘共選場敷地内に建設します。

工事完成、引渡しは11月末の予定です。

設計監理は、静岡県経済連一級建築士事務所が行なっています。



▲挨拶するJALみずの石切山組合長

# 職 員 紹 介

JAや取引先の皆様に推進などでお伺いしている本会職員を紹介します。

## 趣味・特技

趣味は運動です。4月に鎖骨を骨折しその後運動を控えていましたが、徐々に治ってきたため、リハビリとして週2回体を動かしています。今後は健康第一で運動を続けていけたらと思います。

## 担当業務

主に野菜の業務を担当しています。まだ担当する野菜は決まっていませんが、一部の野菜実績の作成や生育状況の調査、目揃え会や担当者会議など様々な会議に同席し、野菜の知識を勉強させていただいています。

## コメント

入会してから半年が経ちました。ジョブコーチの中野係長と様々な業務に携わらせていただいています。知識や理解が乏しい部分が多々あるため、疑問に思ったことは随時間いて覚えていきたいと思えます。



中東部支所 中部みかん園芸課  
なかむら ゆうた  
中村 優太



畜産部 経済連畜産センター  
ふるや かこ  
古谷 佳子

## 趣味・特技

ディズニーのパレードやショーを見るのが大好きで、学生時代は2ヶ月に1回はディズニーに行き夢の国を満喫していました。また、小中高と新体操をしていたため体の柔らかさには自信があります。

## 担当業務

主に乳牛と肉牛を担当しています。乳牛では酪農巡回や酪農ヘルパーの事務局、肉牛では除角や登録等の作業や静岡そだち認定農場の会の事務局運営等を行っています。

## コメント

大学付属の畜産農場で1年間実習生として畜産を経験したことがきっかけで牛が大好きになり、大学でも畜産を学びました。まだまだ未熟ではありますが、農家さんに信頼され頼られる存在になれるよう精一杯頑張ります。

駿府の肉処  
静岡そだち

# テイクアウト

静岡県のブランド和牛『特選和牛静岡そだち』とブランド豚『金豚王』を使用  
静岡県産米「にこまる」と合わせたお弁当です



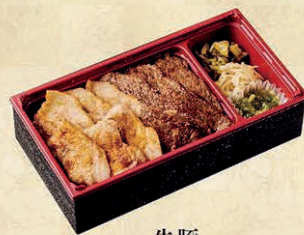
特選和牛  
ステーキ弁当

2,200円(税込)



特選和牛  
焼肉弁当

1,700円(税込)



牛豚  
相盛り弁当

1,200円(税込)

※お弁当は店頭での受け渡しとなります ※お電話でのご注文も承っております



駿府の肉処 静岡そだち TEL:054-251-4129

ランチ 平日 11:30~14:00 (LO.13:30)  
土日祝 11:00~14:00 (LO.13:30)  
ディナー 17:00~22:00(LO.21:00)

住所: 〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町2-15

静岡県産米  
にこまる



「きぬむすめ」を母、「北陸174号(品種『いただき』の兄弟)」を父として交配した品種でももちもちして粘りがある食感と、冷えても硬くならないことが特徴のお米です。

そだちホームページは  
こちらから。



そだちInstagramは  
こちらから。



毎月  
28・29・30日は  
お得な  
ニク  
29  
の日

日頃の感謝を込めたお客様還元デー!

- お得な割引
- 嬉しいお肉増量
- 次回使えるご来店特典プレゼントなど

## LINE 公式アカウント



◀ お友だち登録こちら  
キャンペーンやクーポンなど  
お友達登録された方だけ  
のお得な情報をお届けします!

## HOT PEPPER

ネット予約はこちらから▶  
駿府の肉処 静岡そだち



担当：営業部 流通開発課 (TEL：054-284-9728)

